



あなたが 未来の小原のために できること

おばらみらいプラン後期計画

[2019～2023 年度]

【概要版】

～ 踏み出そう みんなの力で ～
みんなの和で 元気な暮らし
未来につなぐ 里山おばら



2019 年 3 月 豊田市小原地域会議



～ 過疎化に負けないまちへ ～ おばら未来プラン策定の経緯

小原地区では、人口の減少や高齢者の増加、農地や森林の荒廃といった多くの課題を抱えています。こうした状況の中で、「美しい里山おばら」を次世代につなぐためには、私たち地域住民が主体となって、地域課題に立ち向かう意識を持ち、協力し、実際に行動することが必要です。

そこで、地域(住民、集落、各種団体等)や支所など、様々な主体が同じ方向を向き、それぞれの立場で、取り組むことができるよう、2013年度(平成25年度)に今後の10年間のまちづくりの方向性をまとめた「小原地区まちづくり計画(愛称)おばら未来プラン」を策定しました。

～ 小原地区の取り巻く状況 ～

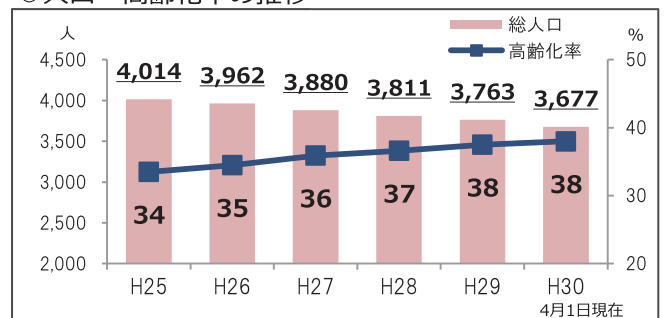
小原地区の人口・高齢化率の推移

小原地区では、この5年間で337人(8.4%)の人口が減少したほか、65歳以上の高齢化率も4ポイント上昇しております。

その要因としては、生まれた子どもの数よりも亡くなった人の数が上回る自然減によるものが大きく、少子高齢化の影響が急速に進んでいる状況にあります。

このままの状態を推移した場合の10年後、20年後の人口は、大幅に減少することが予測され、地域の支え合い活動の低下や里山景観の喪失、伝承文化の衰退など、まちづくりへの影響が懸念されています。

◎人口・高齢化率の推移



◎各年度の人口の動き (単位:人)

人口動態	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度
合計	△ 52	△ 82	△ 69	△ 48	△ 86
自然増減	△ 57	△ 78	△ 41	△ 50	△ 74
社会増減	5	△ 4	△ 28	2	△ 12

※自然増減: 生まれた人と亡くなった人の数の差

※社会増減: 転入した人と転出した人の数(市内転居含む)の差

～ アンケート結果 ～

地域住民が捉える地域課題

地域課題に関するアンケート結果では、多くの住民が「豊かな自然環境の保全」や「獣害対策の強化」と答えています。また、「若年層の定住促進策の拡充」、「空き家や耕作放棄地の対策強化」といった項目も非常に高くなっており、多くの住民が捉える地域課題として対策を検討する必要があります。



アンケート結果は、全21項目の地域課題のうち、「思う」「どちらかといえば思う」と答えた割合の多い項目です。

◎地域課題に関するアンケート結果 (単位:%)

地域の課題認識が高い項目(上位10項目)	H29
豊かな自然環境の保全	66.4
鳥獣害対策の強化	61.9
若年層の定住促進策の拡充	59.8
空き家や耕作放棄地の対策強化	59.8
公共交通機関の充実	56.5
郷土の歴史・伝統・文化の保存と再生	55.4
観光によるまちづくりの推進	54.4
生活道路・交通をスムーズにすること	52.2
農業・農地を保全すること	48.9
住民同士の交流の場や機会の拡充	48.9

※H29年度地域自治システム評価アンケート結果

～ 地域住民と共有する まちづくりの道しるべ ～
おばら未来プランの概要

おばら未来プランは、小原地区が目指すまちづくりの方向性を明確にし、その実現に向けた取組を地域の様々な主体が共有して進めるための計画です。その内容は、まちづくりの基本理念や目標とする将来像を示した「基本構想」と、具体的な行動内容をまとめた「前期・後期計画」の2種類の計画で構成されています。

現在、小原地区では、このおばら未来プランを地域住民共通の「道しるべ」としながら、地域と行政の共働のまちづくりを進めております。


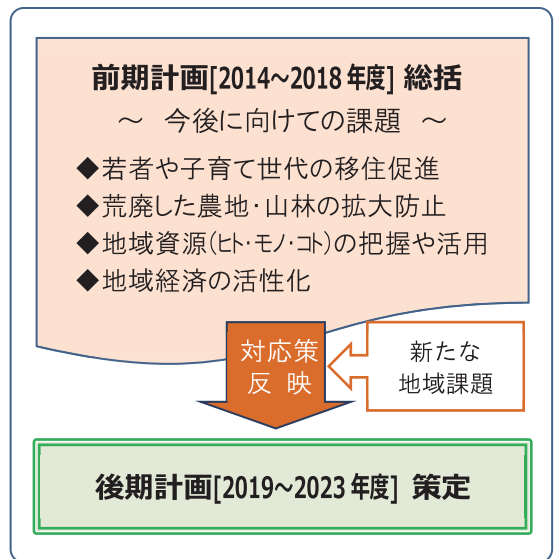


～ 後期計画の策定に向けて ～
後期計画の基本的な考え方

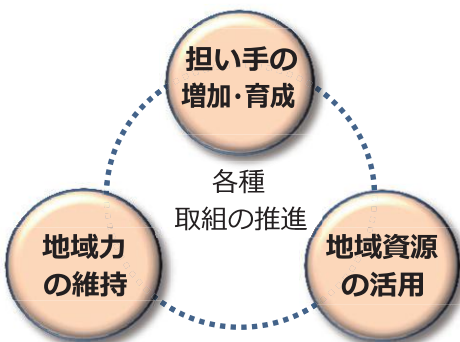
前期計画[2014～2018年度]では、対策すべき11の課題分野と15項目の取組を進めてきました。小原地域会議では、これまでの事業の実績や効果、活動団体へのヒアリング結果、地域の状況、アンケート結果などを踏まえ前期計画を総括し、その内容を後期計画[2019～2023年度]に反映させました。

前期計画から継承した考え方

- ①若者が住みたくなる地域、子育てしやすくなる地域づくりを進める。
- ②暮らし環境を守り、お互いが支えあう地域社会づくりを進める。
- ③地域資源の魅力を磨き、連携させ、観光交流を促進させる。

今後のまちづくりの展開イメージ



3つのポイントを中心に各種の取組を総合的に進める

～ 後期計画策定に向けた取組内容の見直し ～
後期計画の3つのポイント

後期計画[2019～2023年度]では、前期計画事業の考え方を継承しつつ地域の状況などを踏まえ「担い手の増加・育成」「地域力の維持」「地域資源(ヒト・モノ・コト)の活用」の3つの視点を重要視し、関連する分野の取組の強化や見直しを行いました。

この3つの分野を計画の柱とすることで、地域の担い手となる人材を増やしつつ地域の力を結集し、既にある『ヒト、モノ、コト』を生かしながら、目指す将来像である「地域ひとづくり」「豊かな暮らし環境づくり」「魅力ある地域づくり」を進めていきます。

まちづくりの基本理念 (地域住民が共有するまちづくりの根本的な考え方)



～踏み出そう みんなの力で～

みんなの和で 元気な暮らし 未来につなぐ 里山おはら

自然や文化が豊かで、心温かい人が暮らす小原地域が、子どもたちが大人になった時代も元気であるように、地域住民みんなが協力して、まちづくりに取り組みましょう。

おはらみらいプランの全体像





後期計画【2019～2023 年度（5 年間）】の概要

目指す将来像1



～ 地域ひとづくり ～ 子どもが伸び伸びと育つ安心して住み良い里山

<目指すまちの姿>

- ◎若い世代の移住が進み地域の担い手として活躍している。
- ◎子育て世帯間の交流や子ども主体の取組などを地域ぐるみで応援しており、小原で子育てしたいと感ずることができるまちになっている。

取組分野	取組内容	実施主体		
		地域	支所	
定住促進	山村の強みを生かした移住(IJUターン)の推進 / 移住者を受け入れる体制の強化や小原での暮らしの情報発信、移住したくなる雰囲気づくりを進めるなど、地域特性を活かした定住対策を総合的に展開し、将来の地域を担う若者等の移住者を増やします。		◎	○
	おばら暮らしの愛着の向上 / 小原にある地域資源(ヒト、モノ、コト)の情報を、地域住民みんなで共有し活用できるようにすることで、小原の事を考え行動する人を増やします。 / 子どもや若者が小原の歴史や文化、地域活動等を学ぶ機会を増やすほか、住民が所有する写真や資料などもまちづくりに活用し、地元への愛着を持つ人を増やします。		△	◎
まちづくりリーダー育成	重点 まちづくり団体と担い手リーダーの育成強化 / 持続可能なまちづくりの推進に向け、小原地区の課題解決に取り組む団体や人材の育成のほか、団体同士の連携強化や仲間づくりの取組を進め、地域が一体となって活動する意識の醸成を図ります。		○	◎
子育て・子育て	地域ぐるみで子どもの成長を育む環境の充実 / 各年代が子どもと交流できる機会を創出するとともに、学校と地域との連携強化を図り、安心して子どもを育てられる環境づくりを進めます。		◎	△

重点:後期重点施策

実施主体:「◎」主体、「○」連携、「△」協力

目指す将来像2



～ 豊かな暮らし環境づくり ～ 人と自然が共生した暮らしやすく豊かな里山

<目指すまちの姿>

- ◎住民同士の支え合いの中で地域行事が続けられ交流の場になっている。
- ◎山林や農地に人の手がしっかりと入った美しい里山風景が広がっている。
- ◎地域住民一人ひとりが、暮らしをより良くするためにまちづくりに取り組んでいる。

取組分野	取組内容	実施主体		
		地域	支所	
地域支え合い (地域力)	<p>重点 持続可能な地域力の保持</p> <p>／人口減少社会を見据え、今後も住民同士の支え合いの中で地域活動が続けられるよう、各地域がそれぞれの事情にあった運営方法をみんなで考え実践します。</p> <p>／地区内外で活動する各種団体や企業の活力をまちづくりに生かした取組を進め、地域課題の解消を図ります。</p>		◎	○
耕作放棄地 拡大防止	<p>持続的な営農体制の整備と「たのしむ農」の普及</p> <p>／地域営農の組織化や体制づくりの検討を進めるほか、専業農家から家庭菜園程度の趣味的な農業を楽しむ人まで、農業を実践する人を増やす取組を進め耕作している既存の農地を維持します。</p>		◎	○
健康づくり	<p>健康習慣の普及</p> <p>／子どもからお年寄りまで、誰もが楽しく気軽に健康づくりにチャレンジできる環境整備を進めます。</p> <p>／健康づくりに取り組む各活動団体との連携により普及活動を展開し、住民一人ひとりの健康意識を高めます。</p>		◎	△
里山保全	<p>重点 親しみある里山林づくりの推進と保全</p> <p>／森づくり会議や団地化による人工林間伐の推進など、既存の制度を活用して森林整備を進め、多様な機能を有する森林を保全します。</p> <p>／森林にふれあうことができる取組を実践し、里山林に関心を持つ市民を増やします。</p>		◎	○
暮らしの 安心	<p>地域力による暮らしの安心づくり</p> <p>／防災・防犯対策の取組の推進を始め地域の子どもやお年寄りの見守り活動など、住民相互のつながりや支え合いにより、安心して暮らせる地域づくりを進めます。</p>		◎	△

重点：後期重点施策

実施主体：「◎」主体、「○」連携、「△」協力

目指す将来像3



～ 魅力ある地域づくり ～

観光交流を地域の元気につなげる活力ある里山

< 目指すまちの姿 >

- ◎自然や文化、芸術など小原にある様々な地域資源（ヒト、モノ、コト）の把握・発信ができており、国内外問わず多くの人々が小原を訪れている。
- ◎小原の歴史や伝統、暮らし、文化に触れる観光メニューの充実により、観光客が増加し、地域内消費が活発となっている。

取組分野	取組内容	実施主体		
		地域	支所	
観光交流の促進	重点 小原ならではの戦略的観光事業の実践 / 年間を通じた誘客と小原独自の質の高いおもてなしの取組を進めることで、いく度も訪れたい小原のイメージを高めるとともに、その評判を口コミにより広め小原を訪れる観光客の増加を図ります。		◎	○
	 四季桜とモミジの維持管理体制の整備 / 四季桜とモミジの適切な育成と小原全体における管理体制を具現化することで、安定した四季桜の開花とモミジの色付きを促し、美しい里山の風景を保全します。		◎	○
産業振興	地域資源を活かした観光商品の開発 / 地域にある人材やモノのほか既存の行事など、様々な地域資源を活用・連携させ、小原を訪れる人々が魅力的と感じる観光商品を開発・販売し、観光産業の活性化及び魅力向上につなげます。		◎	○
和紙文化の振興	豊田小原和紙の魅力を広めるプロモーション強化 / 2020年豊田国際紙フォーラム開催を契機に豊田小原和紙の芸術性とブランド力を更に高めるとともに、来訪者の受入体制や情報発信を強化し、地域文化の向上と観光交流人口の増大を図ります。		○	◎

～ 前期 5 か年を終えて ～

小原地区のまちづくりの振り返り

小原地区のまちづくりは、少しずつですが、着実に前進しております。

小原地区の各所では、集落ぐるみの活動や自主グループの活動など、地域住民の皆さんによる貢献性の高い様々な活動が積極的に進められており、こうした動きが小原地区全体に広がりつつあります。その結果、少しずつですが、行動に移す人の増加や地元への愛着を持つ人の増加につながっております。

～ まちづくりの合言葉 ～

『WE LOVE おばら』の実践

「地元を良くしたい」という思いは、まちづくりの原動力です。今後の小原地区のまちづくりを加速させるためには、地域の全ての人々が共通して「小原を良くしたい」という思いを持ち、それぞれが協力して無理なく、できることから実践することが大切です。

後期計画[2019～2023年度]の実践に向けては、「WE LOVE おばら」を合言葉に掲げ、誰もが自慢でき誇れる小原を築きましょう。

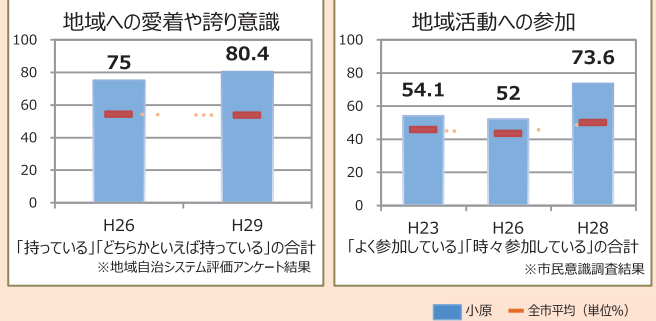
～ 後期計画の推進 ～

目標実現に向けた取組の実践

各種取組の実践に向けては、地域(住民、集落、各種団体等)と行政との役割分担のもとで、わくわく事業や地域予算提案事業のほか、既存の仕組みや制度を活用するなどして、それぞれが知恵と工夫を凝らしながら取組を進めます。

また、小原地域会議では、この計画を基に効果的な事業や仕組みづくりを進めていきます。

住民アンケートの結果



様々な地域活動の紹介



大平自治区空き家片付け大作戦の様子

空き家情報バンク用の物件として、地域による空き家片付け大作戦が行われました。



地域の活性化に向け、実行委員会組織により『おばらマルシェ』が開催されました。



おばらマルシェの様子



四季桜の剪定作業の様子

四季桜愛護会の発足以降、管理方法を学びながら四季桜のメンテナンス作業を行っています。



おばら未来プラン後期計画[2019～2023年度] 概要版
【2019年3月発行】

計画策定：小原地域会議 編集：豊田市役所小原支所

〒470-0592 愛知県豊田市小原町上平 441-1 TEL 0565-65-2001 FAX0565-65-3695